生まれたらいずれ社会に出て人間関係に揉まれながら理不尽な要求の中で働かなくてはならない。好むと好まないに関係なくお金集めをさせられ，一度でも脱落すると復活はほぼ不可能な社会ゲームに参加を強要させられるのは不合理でしかない。
裕福な家庭に生まれても悩みは尽きないし，そもそも生まれなければ感情の起伏も自分の意識も無かった。
生まれた後の行動の責任を取るのは当人なのに，当人に生まれたい意思があるか確認せずに当人を生むのは，親の無責任である…という論理

ライブラリ

娘　「なんで私を生んだのよ！
　　喜びも苦痛も煩わしい。生まれなければ何も無かったのに。
　　子供に同意を得ずに生むなんて，親の価値観を生まれてくる子供に押し付けてるわ！」

母親「生まれる前に煩わしいことがない証明がない。あんたは仮説を事実として進めている」

娘　「じゃあ生まれる前の状態に，楽しいことがあったって言うの？」

母親「それはわからない。だけどお母さんは生まれる前の状態については一切言ってない。生まれる前の状態の方が楽と，暗に受け取れることを言っているのはあんたよ」

娘　「とにかく，生殖行為をしたから私は生まれたの。生殖行為をしなければ，喜びも苦痛も判断も選択も何も無かった」

母親「私たち夫婦の生殖行為は否定して，他の夫婦の生殖行為を否定しないなら，あんたは私たち夫婦の間に生まれて来ることが前提になっているから，私たち夫婦の間からしかあんたが生まれて来ない証明をする必要がある。私たち以外からだと，ちょっと違うあんたが生まれて不満を抱えずに済むなら，なぜ私たちの間から生まれて来たのか。

両親を選べないなら，他人全体の生殖行為も否定することになり，まだ生まれてない人の生きる機会を損失させるから，他人にとっては余計なお世話。

生まれて来なければ苦役に従事することもないし，生きること自体もないのは確かだけど，他人の生殖行為に口出しするのは価値観の押し付けで，あんたは親からされたイヤなことを他人に強いていることになりはしまいか」

娘　「え～，そっか…」

母親「少数による支配下で全体が奴隷生活をしていて，どう考えても全体の未来が暗いなら，子供を作るのはやめた方がいいんじゃないかと全体に問うことはあっても，今の社会情勢なら〇にたいと思う人がいても，生きる喜びを感じている人や物事を極めたい人，漠然と生きたい人などがいるから，生殖行為自体を否定するわけにはいかない。

生まれる前は楽な状態だったに違いないのに…と思うよりは，苦痛に満ちた状態だったかも知れない！と思ったらどうなの。本当のところは誰にもわからないんだから，今が楽になる考え方をしてもケチを付けられる筋合いはないでしょ」

おしまい

グーグル製生成AI を相手に思考の壁打ちして論理を構築しました。
参考になる資料：「反出生主義」

最終更新日 2026-11-03